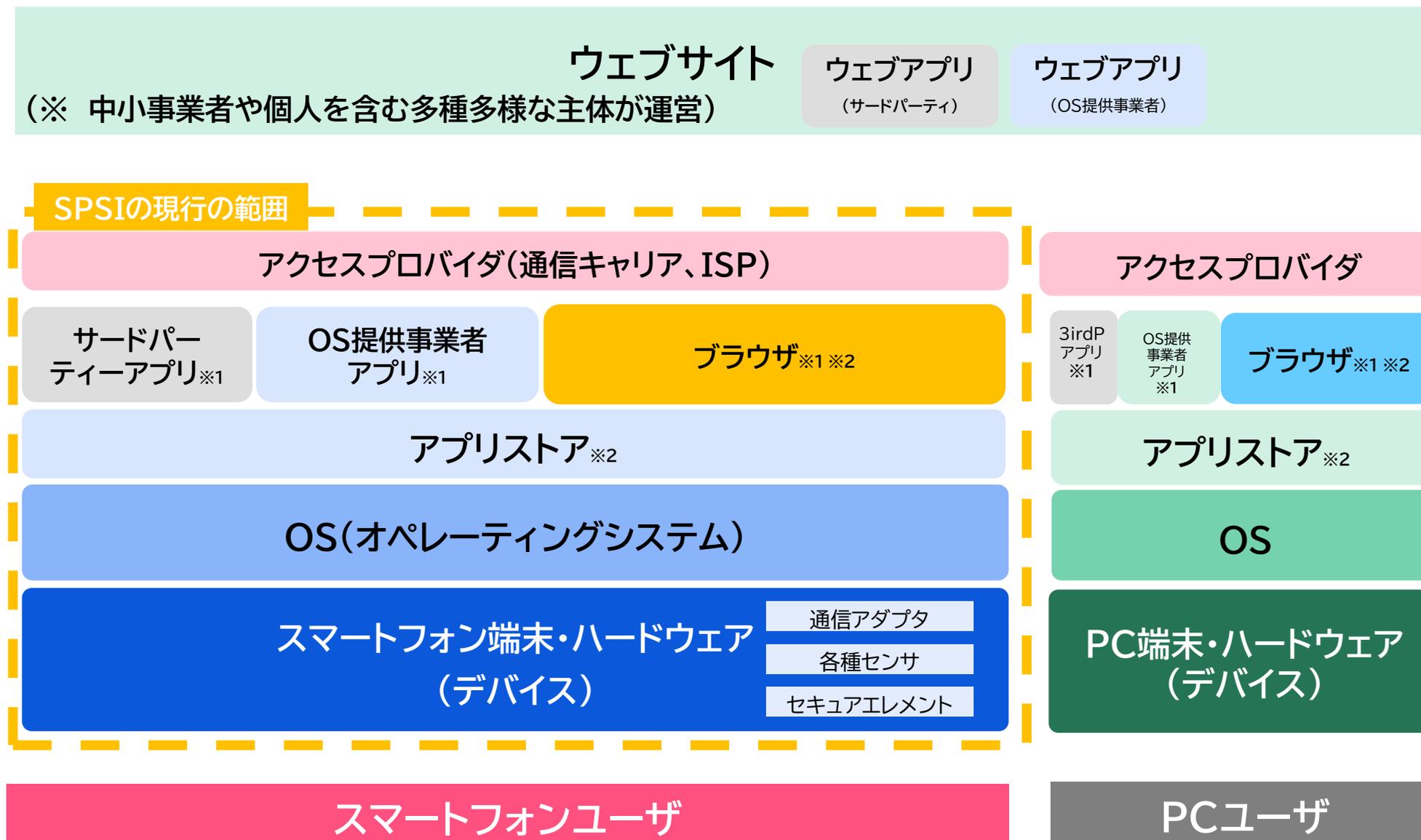


○ SPSIの現行の範囲は下図点線のとおりであり、ウェブサイトにおける利用者情報の取扱いは対象外。



※1 常にアプリストアからインストールされるとは限らず、端末購入時にプレインストールされている場合や、アプリストアを介さずに直接インストールできる場合もある

※2 OS提供事業者によるものと、サードパーティによるものがある

# SPSIにおけるウェブサイトの取扱いに關していただいた意見と方向性(案)

## 【いただいた主なご意見】

- ブラウザもアプリの一種なので、アプリとブラウザで取得できる利用者情報にほぼ差はない。アプリと同様、ブラウザを通じたウェブサイトの閲覧でも利用者情報が第三者に外部送信されている。【太田構成員】
- スマホ利用者はブラウザとアプリをそれほど意識的に区別して使っていないのではないか。【上沼構成員】
- アプリとウェブの違いとは何か。ブラウザの中で閲覧できるコンテンツをウェブサイトとすると、ウェブアプリはどちらなのか。Webexもアプリ版とウェブ版があるが、ウェブ版はどちらなのか。【蔦オブザーバ】
- SPSIの目的がスマホ利用者情報の安全安心であるならば、ウェブサイトの外部送信を除外するのは不合理。アプリによる第三者への外部送信とウェブサイトのタグによる第三者への外部送信は同じく扱われるべき。  
【森構成員】
- ウェブサイトはSPSI以前から存在しており、種類や開設者も多種多様。SPSIのウェブサイトへの対象範囲の拡大について、どのような課題に対処するために何について誰を対象としたどのようなものを議論すべきで、ウェブサイトに関する課題の解決手段がSPSIとは限らない。SPSIの内容が膨大になり関係事業者が参照しづらいものになることに懸念。【新経済連盟】



## 【方向性(案)】

- 従来よりSPSIはアプリを通じて収集される利用者情報に焦点を当てており、ウェブサイトの外部送信に関してウェブサイト運営者が取り組むべき望ましい事項の記載はない。
- 他方、ウェブサイトは、OS事業者やアプリストア提供者による審査がない等、スマホのエコシステムの外側にあると考えられる上、中小企業や個人によるものも含め、日本におけるウェブサイトの数も相当数あると考えられ、法律に明確に規定されている事項を超えて、現在のSPSIの広範な事項をそのままウェブサイト運営者に求めることには実効性の観点を含め様々な課題があるのではないか。
- 外部送信を含むウェブサイトの課題については、SPSIの範囲を単純に拡大するのではなく、今後の課題として別途の対応が必要ではないか。